

夏本番です。もともとが寒い国の家畜である乳牛にとっては暑熱対策が欠かせない時期です。暑熱対策に"もう十分"はありません。基本に立ち返りチェックしてみましょう。

暑熱対策の基本

暑熱対策の基本は大きく3つに分類できます。

- 1) 牛を暖めない → 日射しの対策
- 2) 牛を冷やす → 送風の対策、ミスト
- 3) 牛から熱を出さない → 飲水、飼料管理

これら基本の3項目をチェックしてみましょう。

チェック1 牛を暖めない

- ①朝日、夕日とりわけ西日が直接牛舎に差し込んでいませんか？
- ②照り返しがありませんか？
- ③屋根は断熱効果の高いものですか？

対策としては、牛舎のヒサシを長くしたり、庇陰樹を植えるのが効果的です。屋根を簡単には工事できない場合は散水も効果的ですが、この場合は排水をしっかりと確保しないと、湿度を上げてしまうこともあります。

チェック2 牛を冷やす（送風機）

- ①送風は牛に直接あたっていますか？
- ②夜間の送風を行っていますか？
- ③送風機がホコリだらけになっていませんか？
- ④牛舎内に空気が淀む箇所がありませんか？

送風機が廻っているだけでは十分な対策になっていません。牛は22度を超えると乳量が低下しますので、夏場は24時間送風が必要です。牛1頭1頭に送風が直接あたるように確保されていることが重要です。

チェック3 牛から熱を出さない

- ①良質粗飼料を与えていますか？（刈り遅れ注意）
- ②複数回にわけて粗飼料を与えていますか？（夜間給与が望ましい）
- ③十分な飲水が確保されていますか？

暑熱により採食量に影響をうける飼料は、濃厚飼料＜サイレージ＜粗飼料の順になります。よって、粗飼料の管理が大切になります。採食量がどうしても少ない場合は、粗飼料を減量して濃厚飼料を増量することも牛体を維持するためには必要なこととなります。

TMRを利用している場合

TMRは調整後10時間程度で発酵を開始し温度が上昇します。50度程度まで上昇し劣化するばかりか、舎内温度も上昇させることもあります。1回給与で放置せず、複数回に分けて給与することが必要です。

これらの暑熱対策の効果は検定成績表で検証できます。乳量とりわけ標準乳量が落ち込んでいれば、暑熱対策がまだ十分でないことを示しています。検定成績表についてのご意見ご質問は次に連絡願います。

Email : toiawase@liaj.or.jp 電話 03-5621-8921 家畜改良事業団電子計算センター

平成24年8月、9月 家畜改良事業団電子計算センター